

これだけは覚えよう！重要ポイント

散らばり

箱やひげの長さで判断

中央値

箱の中の縦線の位置

比較

複数の箱ひげ図を並べる

Q. 箱ひげ図でデータを比較するには？ 箱やひげの長さ・位置を比べる。散らばりや中央値の違いがわかる。

① 中央値の比較

読解

箱の中の線 (Q_2) の位置を比較。右にあるほど中央値が大きい。 Q_2 の位置で比較

② 散らばりの比較

読解

箱が長い→散らばりが大きい。ひげが長い→外れ値も広がる。

箱の長さ = IQR

③ 範囲の比較

読解

ひげの両端 (最小～最大) の幅を比較。範囲の大きさがわかる。

ひげの端から端 = 範囲

④ 分布の偏り

応用

箱の中で Q_2 が偏っていれば、データが左右に偏っている。 Q_2 が箱の左寄り → 右に裾

💡 ミス回避のコツ

⚠️ 箱の大きさでデータ数を判断

✖

箱が大きい = データ数が多い

○

箱が大きい = 散らばりが大きい

箱の大きさはIQR (散らばり) を表す。データ数ではない。

⚠️ 目盛りを確認しない

✖

見た目だけで判断

○

目盛りの数値を確認して判断

必ず横軸の目盛りを読み取って比較する。

最終確認チェックリスト

- 複数の箱ひげ図を正しく比較できるか？
- 中央値と散らばりの違いを読み取れるか？
- 分布の偏りを判断できるか？

